

赤潮調査事業（毒化モニタリング調査）*¹竹内照文・小久保友義・今原幸光*²

目 的

貝類の毒化状況と毒化原因プランクトンであるProtogonyaulax属、D. fortii やD. acuminataの出現状況について調査し、貝類の毒化状況を把握するとともに、将来の貝毒監視体制の確立を図る。

なお、詳細は「昭和63年度赤潮防止対策事業（毒化モニタリング）報告書」に報告されている。

方 法

和歌浦湾（アサリ）、芳養湾（ヒオウギ）、田辺湾（アサリ）、串本浅海漁場（ヒオウギ）、森浦湾（ヒオウギ）と佐野湾（ヒオウギ）でPSP（50回）やDSP（5回）の検査とともにProtogonyaulax属やDinophysis属の出現状況について調査した。

結 果

- 1 和歌浦湾では6月14日にアサリのPSPが2.2MU/g になったが、規制値を越えることがなかった。P. catenella は5月中旬頃から6月中旬頃に出現し、最高1,045cells/l になった。
- 2 田辺湾ではP. catenella がコンスタントに出現していたが 10^4 cells/l 以上になることがなく、また、ヒオウギのPSPも10MU/g - 中腸腺以下で推移していた。両者とも1981年以来最も低い値であり、5月中旬に低水温であったことが原因の一つと考えられる。
- 3 芳養湾、串本浅海漁場、森浦湾と佐野湾ではP. catenella がコンスタントに出現する期間もあったが、 10^3 cells/l 以下で推移していた。また、ヒオウギのPSPは10MU/g - 中腸腺以下で推移し、規制値を越えることがなかった。

*1 赤潮調査事業費による。

*2 水産課